

第 11 回（平成 22 年度第 1 回） ISO/SR 事例 WG 議事録

1. 開催日時： 平成 22 年 8 月 26 日（木） 10:00～12:00
2. 開催場所： （財）日本規格協会 本部ビル 4 階 第三会議室
3. 出席者： 【敬称略・五十音順】出席者（○）、代理（△）、欠席者（×）
主 査： 田中宏司（東京交通短期大学）○
委 員： 青木修三（環境経営学会）○、倉津一壽（東京商工会議所）○、黒田かをり（CSO ネットワーク）○、猿田晃也（環境省）△（代理：森下英司）、島田京子（日本女子大学）○、富田秀実（ソニー）×、仲田賢（連合）×、古谷由紀子（日本消費生活アドバイザーコンサルタント協会）○、牧葉子（川崎市）○
関係者： 田場盛裕○、宮澤武明○（以上経産省）
佐藤洋○、小堀紀子○、加藤陽介○（以上三菱総合研究所）
事務局： 岡本裕○、佐藤恭子○（以上 JSA 記）
4. 議事次第： (1) 議事、資料の確認
(2) 平成 22 年度の SR 事例 WG について（確認）
(3) 冊子「やさしい社会的責任」の検討
(4) その他
5. 資 料： WG II-11-1 平成 22 年度の SR 事例 WG について
WG II-11-2 『やさしい社会的責任』に対する国内委員会からのコメント
WG II-11-3 『やさしい社会的責任』【解説編】 2010.8.23 版
WG II-11-4 『やさしい社会的責任』【事例編】 2010.8.23 版
WG II-11-5 『やさしい社会的責任』【概要編】 2010.8.23 版
6. 議事概要：
 - 6.1 議事、資料の確認
事務局より資料及び議事次第案の確認を行った。議事次第案は案のとおり了承された。
 - 6.2 平成 22 年度の SR 事例 WG について（確認）
事務局から資料 WGII-11-1 にしたがって、昨年度末からの検討課題と今年度の SR 事例 WG の活動内容について説明があった。今年度は（株）三菱総合研究所に代わり（財）日

本規格協会が事務局を務めるが、三菱総合研究所は内容面で継続して SR 事例 WG に携わることとなっている。また、去る 6 月 30 日に開催された ISO/SR 国内委員会において、SR 事例 WG が作成している冊子について議論が行われ、冊子の今後の取扱いについては、SR 事例 WG に一任された旨の説明があった。

6.3 冊子「やさしい社会的責任」の検討

資料 WGII-11-2~5 にしたがって、三菱総合研究所から、冊子『やさしい社会的責任』に対する国内委員会からのコメントへの対応案及び主な変更案の説明があった。その後、意見交換が行われた。

意見交換の結果、主に次の事項が決定された。

- ・ 第 5 項と第 7 項をどの程度盛り込むかについて（コメント#2~4）：初めて社会的責任に取り組む人にとってのとっかかりやすさ、全体の分かりやすさや長さなどの観点から、第 6 項を中心とした現在の体系は維持し、「はじめに」において、本冊子が ISO26000 の全体ではなく第 6 項の中核課題に焦点を当てていることの説明、規格の一部について限定して説明した理由について記述を強化する。さらに、解説編の 3 ページと 4 ページとの間に ISO26000 の第 7 項の図 4 を挿入し、かつ説明を追加する。その際、課題を全部やらなくてはいけないのではなく、すべての中核主題を見ながらも、関連性と重要性とを判断して取り組めばいいということを記述する。
- ・ 冊子公開のタイミングについて（コメント#1）：正式な翻訳が出来てからの公開とした方がいいのではないかという意見もあったが、正式な翻訳の発行が何時になるか現時点では見通しが立たないこと、他方で ISO26000 がどういったものなのかをタイミングよく世の中に伝えることの意義を考慮し、国際規格の発行のタイミングに合わせて公開することとする。ただし、冊子は、あくまで事務局が作成した FDIS26000 の仮訳を用いて作成している旨を明記する。
- ・ 以上のほかは、WGII-11-2 の事務局記入欄に示された対応案のとおり了承された。

以上のほか、委員からは次のような意見があった。

① 解説編について：

- ・ 「項」と「章」が混乱している。統一する。
→規格では「箇条」と記すが、小冊子では「章」とする。
- ・ 読みやすさのために、図はなるべく大きくする。
- ・ 図 2 で「6.2 組織」と「統治」が離れているため、読みにくく案っているので、「6.2 組織統治」とした方が良い。
- ・ 消費者課題のイラストは、企業と消費者の位置関係が適切ではないので企業と消費者の位置関係を同じ位置に変更する。また、消費者は複数いた方が良い。
- ・ 組織統治のイラストは、マルチ商法の時に使うような、違う組織が広がっていく図のよ

うにも見えてしまう。ひとつの組織の中にあるようなイメージにした方が良いのではないか。

- ・ イラストの左側の文字（環境、組織統治など）を取ってイラストだけにした方が良い。
- ・ 1 ページ「近年、環境破壊、貧困など世界中でさまざまな社会問題が発生しています。」について、環境問題と貧困問題は近年発生したわけではないので、「発生しています」は「深刻化しています」にした方が良い。
- ・ 6 ページ最終パラグラフ「海外に進出した」は、直接投資のようなものを思い浮かべてしまうので、「海外に拠点・取引をもつ」と広くした方がいいのではないか。
- ・ 7 ページの注記について、先のコペンハーゲン総会で、デューディリジェンスの概念は人権だけでなく ISO26000 の全体にとって重要な概念になっている。ここでは、ISO26000 の定義を参照しつつ、ISO26000 全体にとってのデューディリジェンスとして分かりやすく説明する。

② 事例編について：

- ・ 1 ページの株式会社イミオの従業員数を追加した方が良い。
- ・ 10 ページの株式会社コミュニティタクシーについては、介護タクシーもやっているので、コミュニティ参画及び開発だけでなく、人権における高齢者・障害者の支援にも関係することを注で加えてはどうか。

6.4 その他

事務局から、今後の進め方について次のとおり提案があり、了承された。

- ・ 委員の意見をもとに事務局が修正し、SR 事例 WG に最終確認のため配布。
- ・ SR 事例 WG の確認の後に、国内委員会にも配布する。なお、同時に、国内委員会にコメントの扱いについてフィードバックを行う。
- ・ ISO26000 発行に合わせて国内委員会の Website に掲載する。また、小冊子を作成することも事務局の方で引き続き検討する。ダウンロードしての利用やウェブでのリンクなどは、出典を明確にした上で自由に行えるようにする方向で対応したい。
- ・ SR 事例 WG の開催は、基本的に今回を最後とし、今後は必要に応じてメールベースで調整を行うこととする。
- ・ 冊子に関する質問については、事務局で対応できるものは対応させていただきたいが、必要に応じて、SR 事例 WG の委員のメールベースでの合意を以って回答することとしたい。

以 上